

## 第3章 「観光・地域振興に活用されている馬」

### 観光・地域振興

国内最大の馬産地で馬による地域振興

日高地域（新ひだか町／浦河町）

馬による町民、観光客の交流を普及



北海道の日高地方は国内最大の馬産地として著名な地域であり、軽種馬の生産、育成、調教が地域の基幹産業となっている。また、サラブレッド銀座や競走馬のふるさと案内所など、競馬で活躍した名馬や牧歌的風景を求め、競馬ファンなどが数多く訪れる観光地としても有名である。

そのような馬産地である日高地方で、地域資源である馬を地域振興等に活用しようとする新たな取り組みが行われている。



日高地域 馬産地の放牧風景

### ○ 新ひだか町

#### 事業の概要

新ひだか町（旧静内町と三石町）では、町の創生総合戦略の中で、「馬力本願プロジェクト」として、馬を活用した地域活性化事業を位置付けている。

町の地方創生推進室を中心になって、「馬産地らしさを活かしたまちづくり」をめざし、日本一の馬産地である新ひだか町の特徴（強み）を最大限に活かし、行政、関係団体、民間事業者等が連携して各種事業を展開することにより、交流人口の安定的な確保や地域内の消費の拡大を図るとともに、その効果を新ひだか町の基幹産業である軽種馬産業の振興への波及させることを基本方針とした取り組みを行っている。

具体的には、馬産地イメージの向上、馬文化の伝承・意識情勢、馬とのふれあい空間の創造などについて事業展開することとなっており、住民主体のまちづくりとして進められている（新ひだか町HP参照）。

#### ライディングヒルズ静内

町では、住民や観光客の馬とのふれあいの場の中心として町営のライディングヒルズ静内が設置されている。テーマとして「町民の乗馬による『人づくり』を支援する施設整備」としている。

馬産地であり、馬が身近な存在である環境にありながら、「高価で繊細な競走馬には近づきたい」と思っている町民は少なくない。このような環境のもと、町として「一般の人が馬に乗る、馬と触れあう」ことを浸透させていくことは、むしろ身近に馬がない地域に比べて数段難しい一面があると思われる。施設長は「若者は高校卒業と同時に町を出てしまう。ここで育った子は「一度は馬に乗ったことがある」ということで送り出したい」と話す。

ライディングヒルズ静内では、「町民こども乗馬体験教室」「町民こども乗馬教室（経験者コース）」「町民乗馬体験教室」「夜間町民乗馬教室（経験者コース）」「ライディングヒルズ静内乗馬大会」などが活発になされている。また、ボランティア活動を通して、広く社会性を養う目的で児童・生徒を対象にジュニアボランティアを募集している。

#### ＜主な事業内容＞

1. 町民を対象とした乗馬普及事業（町民乗馬教室の開催や乗馬サークル活動等の支援）
2. 学校教育事業（乗馬学習の開催等）
3. 障がい者乗馬支援事業
4. 町（又は教育委員会）が主催する行事対応等
5. 馬とのふれあい（馬にふれる、撫ぜる、草を食べさせる等）や一般乗馬体験（引き馬、レッスン、トレッキング対応）の受入れ



ライディングヒルズ静内乗馬大会の様子（HP より）



家族で馬とのふれあいを楽しむ

### 運営体制等

ライディングヒルズ静内は町の教育委員会が所管し、町営の体育館や武道館などと同様に社会体育施設として運営している。年間予算は2,500万円～3,000万円である。再開初年度の見込利用者数は4,000人。3年後には7,000人利用を目指している（見学者を含めると約1万人）。

職員数は7名（正職員、嘱託職員、パートタイマー；うち3名がインストラクター）である。障がい者乗馬会の時は静内乗馬同好会のボランティア部会の人達が協力する。他に小学5年生から大学生までを対象としたボランティアが7名登録され、土日や長期休暇時などに施設の維持管理作業などに協力してくれている。

馬の飼養頭数は14頭。サラブレッド、ハフリンガー、半血種、在来馬系、ポニーなどである。

### ○ 浦河町

#### 事業の概要

浦河町では軽種馬生産だけではなく、馬を広く活用した町づくりを目指し、「優駿の里構想」のもと、地域間交流の中核となる優駿の里公園の整備や、「5,000人町民乗馬」の拠点となる乗馬公園の整備を行ったり、町民や観光客が馬に触れあう機会を整えるなど、町をあげて取り組んでいる。

### 第3章 「観光・地域振興に活用されている馬」

乗馬公園は、平成元年に開催された「はまなす国体馬術競技場」会場跡地を再整備したもので、町民への乗馬普及と、町外から訪れる人たちへの乗馬体験を提供している。町民乗馬教室の開催や、町内小学校への乗馬教室、幼児の乗馬体験、町民乗馬大会も開催するなど、町民と馬のふれあいの拠点となっている。

町民乗馬教室は、18歳以上65歳以下の町民を対象に年2回開催されている（会場：JRA日高育成牧場および浦河乗馬公園）。乗馬体験学習は、町内の子どもたちを対象に、乗馬体験を通して感性や情操を育てる目的で行われている。小中学校乗馬学習（職場体験学習として厩舎作業や曳き馬など）や保育所・幼稚園の体験乗馬（5月から10月まで）を行っている。町民乗馬大会は、JRA日高育成牧場や浦河乗馬公園を会場に、町内で乗馬活動を行っているポニー少年団・浦河高校馬術部・JRA日高育成場・浦河乗馬クラブ他乗馬公園で活動している団員が一堂に集まり、日頃の練習の成果を披露している。ポニー少年団は、全国的にも珍しいスポーツ少年団として活動をしている。



高齢者乗馬でのふれあいの場面（HPより）

馬を活かした多彩なイベントも行われており、「馬フェスタ」は、馬上結婚式や浦河競馬など馬にこだわったイベントになっている。「騎馬参拝」は、明治43年以来続けられている、人馬の無病

息災を祈願する馬産地ならではの伝統的な行事となっている（浦河町HP参照）。

浦河乗馬公園では、一般財団法人ホースコミュニティが浦河町からの業務委託を受けて、日常的に、障がい児・者のセラピー活動、高齢者を対象とした介護予防のための乗馬等を実施している。



乗馬を楽しむ子ども達（HPより）

また、乗馬療育の普及・発展のために、乗馬療育を実施する団体、利用者、医療機関、行政、福祉従事者などのメンバーによって「うらかわ乗馬療育ネットワーク」を設立し、相互連携の向上に尽力している。複数の地元医療機関とも連携して、町民の精神的ケアや自立支援の向上に貢献している。

このように、浦河町では基幹産業として軽種馬生産の振興を図るだけではなく、日本有数の馬産地として、観光から医療まで幅広い分野での馬の

活用や乗馬の普及に努めている。

### 運営体制等

浦河町乗馬公園は町営であり、クラブハウス、研修室、会議室、覆馬場、競技馬場（角馬場）、走路馬場を備えている。スタッフは6名（正職員、嘱託職員、パートタイマー；うち3名がインストラクター）で運営されている。常勤スタッフとして、乗馬療育インストラクター・社会福祉士、理学療法士、作業療法士の有資格者3名が従事している。

一般財団法人ホースコミュニティは業務委託事業費（1,350万円（平成28年度予算））を受けて実施している。馬は元競走馬（サラブレッド）2頭、中間種3頭、ポニー1頭の6頭が飼養され、スタッフとともに活動の柱になっている。

### 背景（地域連携、展望等）

「新ひだか町」と「浦河町」は、北海道日高振興局管内の中央から東側にかけて位置し、日高山脈を背に、太平洋を望む温暖（冬の降雪量は少ない）で緑あふれる自然に恵まれた町である。

この地域の代表的な産業として軽種馬産業が挙げられる。全国の約80%の競走馬を生産している日高管内にあって、数々の歴史的名馬を輩出しており、「競走馬のふるさと」としての伝統を誇っている。

今後の努力目標としては、①馬とのふれあいや乗馬をもっと身近なものとする。とくに児童など小さい頃からのふれあいを促進する。②周辺地域や町外に向けたPRを強化するための方法を検討する。③教育機関、医療機関などとの連携を一層深めて地域交流を促進する。④利用者に応じた馬のバリエーションを増やす、ことなどが挙げられる。

.....

○ライディングヒルズ静内  
〒056-0011 日高郡新ひだか町静内真歌7番地1  
(TEL)0146-42-1131

<新ひだか町 (URL) <http://www.shinhidaka-hokkaido.jp/hotnews/detail/00000377.html>>

○浦河町乗馬公園  
〒057-0002 浦河郡浦河町字西幌別327番地の9  
(URL)<http://www.town.urakawa.hokkaido.jp/sports-culture/sports/shisetsu/jyoubakouen.html>  
(TEL)0146-28-1304